

研究者名：天貝 義教（美術教育センター 教授）

研究課題名：昭和戦後期日本におけるデザイン概念の成長と拡大：応用美術からモダン・デザインへ

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成30年度～平成32年度

※補助事業期間を令和3年度まで延長

※補助事業期間を令和4年度まで再延長

【研究概要】

今日一般的に用いられている「デザイン」という日本語は、「design」という英語の単なる翻訳語としてではなく、また、ものの形や色の単なる処理を意味するだけでなく、広く人間の創作活動全般を総称する概念として用いられている。こうした今日的なデザイン概念の基礎は、第二次世界大戦の終了した昭和20年の後半から意匠法の根本的改正が行われた昭和30年代後半にいたる昭和戦後期におけるデザインをめぐる議論のなかで成長し拡大していったと考えられる。本研究では、この発展過程における議論の特徴として、応用美術の思想からモダン・デザインの理念への変化があったことに注目し、その変遷過程を、昭和21年に復刊された「工芸ニュース」、昭和30年に創刊された「リビングデザイン」など、工芸やデザインを専門とする主要な雑誌にみられる論考を手がかりにしてデザイン史的に明らかにし、その成果を国際的に公開することを目的とする。